木々が薪に見える再び薪ストーヴァーになって

美幌医師会
美幌町立国民健康保険病院　西村（にしむら）　光太郎（こうたろう）

私は20年ほど前、四国の高松市に住んでいたときに、そこにあった古い薪ストーブで４度の冬を過ごした。当時、幼かった長男とストーブの前に座り、「次はこれにしようか」などと相談しながら一緒に薪をくべたことが、昨日の事の様に思い出される。

四国は暖かいイメージがあるが、家の断熱は悪く、夜間は暖房を切るので朝には室温が５度程度に下がることは当たり前だ。薪ストーブを使うようになり、寝る前に薪をくべると、朝の室温が13度にキープできるようになった。薪の調達に苦心しながら、薪ストーブライフ継続のために労を惜しまなかった。

その後高知県の山奥に移り、家族で診療所となりの医師住宅に住んだ。もちろんそこに薪ストーブはなく、木々に囲まれた環境に関わらず、薪ストーブライフは一旦中断した。その後2015年に北海道美幌に居を移したが、そこでも同様であった。エアコン暖房の気軽さも気に入っていたなか、2024年冬についに薪ストーブライフ再開のときがやってきた。

町内の開業医の先生が引退後都会に転居され、住居を譲り受けた。薪ストーブが居間の片隅に鎮座していたが、ほとんど使われず32年の年月を刻んでいた。先生ご一家は多忙で、薪どころではなかったようだ。ストーブはノルウェー、ヨツール製のもので、古めかしいデザインでとても趣があった。しかし煙などの環境性能が現代の水準になく、新しい機種に入れ替えた。デンマーク、ヒタ社のロギオーブンソープストーンという、北国にぴったりの大型の機種である。古いストーブは、私と同じく薪ストーブ愛好家である弟に譲り、彼の経営する雑貨店に飾られている。

我が家の引っ越しは家の修繕などもあり2025年夏になるので、昨冬は数時間の試運転の繰り返しであったが、その時々は至福の時間であった。

北海道で必要とする大量の薪を自分で用意できるはずもなく、まずは森林組合から４トントラック１台分を購入し、自作した４棟の薪棚に積みあげた。買った薪を積み上げるだけで、かなりの重労働で、これを毎年やると思うと、少し気が重かった。しかし薪だなに積んだ大量の薪を見ると、まるで大きな財産を得たような安心感がある。また庭に点在する薪棚は、薪ストーヴァーを自認する私には宝の山であると同時に、最高のオブジェにもみえる。そして、街路樹、並木、山の木々をみると、薪に見えて仕方がない、昔の感覚がよみがえってきた。薪はうまく入手すると灯油より安い。木が成長するときに二酸化炭素を吸収するので、理論上カーボンニュートラルともいわれている。薪の生産は森林保全につながるとのもいわれる。同じ燃料代を払うなら、北海道の林業事業所に払う方が気が楽だ。ゴミ扱いであった庭木の剪定くずや牛乳パックも貴重なたき付けになる。

そして心地よい日だまりのような暖かさ、揺らめく炎の美しさ、薪がはぜるかすかな音、着火や薪を足すときの楽しさはやはり格別である。薪も１本１本違い、燃やし方も状況次第で実に戦略的だ。燃え方は、常に変化し二度と同じ状態にはならない。

薪ストーブは見事なほどに実用的であると四国にいるときに実感しているので、この北海道でも実用的な暖房器具であることを証明したい。オーブン料理にも挑戦したい。家族からはとんでもないものを作るのではと今から恐れられている。それと根っからの貧乏性の私は、薪を１本入れるたびに、あずきバー１本分を燃やしたなどと考えないようにしなければならない。数年後、我が家の薪ストーブが巨大なオブジェと化していないことをここで皆様に約束し、まとまりのない文章を締めくくりたいと思う。

追伸

薪ストーブライフにご興味がおありの方は、北海道医師会員の方にかぎり、病院にご連絡ください。ショールームではわからないディープな世界をお見せできると思います。

なおこれは、当院への勧誘ではありませんが、ご応募は大歓迎です。